

## 豊岡地区“まちづくり懇話会”会議録

日時：平成 29 年 7 月 1 日(土) 14:00～16:00

場所：豊岡公民館

次第：1 開会 地域振興課長

2 挨拶 日光市長 斎藤文夫

3 内容 (1) まちづくり懇話会とは  
(2) テーマ「子育て環境の充実」について  
(3) 意見交換

4 その他

5 閉会

### 《意見交換内容》

**参加者：**市内には大学がありません。進学するために、必ず市外に出なければなりません。優秀な人材の流出につながります。しかし、日光は国際的な観光を学ぶ場所として優れています。もっと新しいアイデアを入れることで、何泊もしたくなるようなまちになっていけると思います。世界的に観光業は、注目を集めている分野だと聞きました。有名大学の観光学部を新設し、日光に誘致するということがいかがでしょうか。2つ目は、全国の子供の貧困率は30%と言われていています。その原因の1つに離婚率の増加があります。その要因は夫婦の心の乱れだと思えます。そこで心を学ぶ、倫理を学ぶ機会を増やし、離婚率が低下すればいいと思えます。栃木県の離婚率は、全国で26番目ぐらいだと思えます。この離婚率を下げることによって、一番離婚率が低い日光市にすれば、住んでよかったなというまちになると思えますので検討してください。

**総合政策部長：**ただ今、ご指摘いただいた大学誘致の件につきましては、すばらしいことだと私も思っております。しかし、いざ実際どういうふうに誘致するかとなると、ハードルが高い問題だと認識しております。なかなか市単独となると難しいのですが、現在、国のほうが地方への大学移転ということで、いろいろ手を打つ動きがありますので、その1つを紹介させていただきます。東京23区におきましては、今後大学の定員増は認めないという方針を基に、具体的な制度設計を年度内にまとめるという国の動きがあります。こういった国の動きを注視しながら、できることからやっていくということになると思えますので、よろしく願いいたします。

**教育長：**2つ目の離婚率についてですが、心を学ぶ、倫理を学ぶ機会をという意味で、教育のほうから答えさせていただきます。日光市には小学校26校、中学校15校あります。それぞれの学校で特に道徳に力を入れておりますので、今の子供たちにはそういったことは育ってくるかと思えます。結婚されている方はわかると思うのですが、お互いに忍耐力が必要な面もあるかと思えます。そういった意味で、子供たちの心を育てていきたいと思えます。

**参加者：**好き嫌いという感情で結婚すると思います。その感情がもって3年と言われております。家族愛や子供愛に変わっていくのです。親の心の教育が高まればものの見方や考え方が変わってくるので、離婚率が下がって子供の貧困が少なくなるのではという意見がありました。

**市長：**大学誘致については、これまでも要望が出ているのですが、今は少子化で、大学も競争になってきております。観光という切り口で大学誘致ということではありますが、今、日光市の場合には、日光明峰高校をどうするかという話が大きな課題になっておりまして、そこに観光学科みたいなものをつくらいいのではないかとという意見もあります。大学を誘致する場合には、土地を全部市が提供するか、建物の補助を出すとか、非常にお金がかかるものですので、日光市だけでは難しい話です。現実の問題となると厳しいものがありますので、ご理解いただきたいと思います。

**参加者：**私は、近所の子育てをしている若い夫婦に意見をいただき書かせていただきました。1つ目は、子供の夜間における突然の病気や怪我に関する問題であります。現在は休日夜間診療所というのがありますが、それ以外で平日の夜間や土曜日の午後や夜間、年末年始等においても開設してほしいということです。2つ目は通学途上、どうしても道が狭く危ないので、親御さんが立ちあったりして誘導などをしていますが、そのような中で消えかけている横断歩道停止線の塗装、警察による巡視、立哨の強化、交通指導員の増加などがあればいいのかなと思います。3つ目は、来年4月からゴミの有料化ということで、子供がたくさんいる家庭ではゴミの量も多くなります。ゴミ袋の値段が、多少なりとも家計の負担になってくるのではないかとということで、子供の人数に応じたゴミ袋無料配布や割引助成などがあると、大変助かるということでもあります。

**健康福祉部長：**ご意見にあったとおり、現在は日曜日と休日の昼間と夜を休日急患としてやっています。市内の医療機関の先生方のご協力で交代制でやっております。正直、これを平日の夜もということになると、このかたちでやるのは厳しいと思います。現在は市内5つの病院に輪番制で夜間の対応をしていただいております。これで十分かといふとなかなか難しい面があるのですが、医師の確保は非常に厳しい状況なので、問題意識は持っているのですが、これをやれば夜間の子供専用の病院が開けるといふ状況にないので、申し訳ありませんが、これは課題として検討させていただきたいと思います。

**市民生活部長：**お子さんたちの通学路の安全ということですが、市全体のバランスもありますので、現地を見させていただきたいと思います。

**教育次長：**2つ目の課題ですが、教育委員会のほうで各学校と警察、土木等の関係団体で組織します日光市通学路安全協議会という集まりがあります。そこには、各小学校の教頭先生にも入

っていただいて、実際に各学校の危険な通学路というのを、毎年上げていただいています。その中で、まずはできるところからやっていくということで、毎年対応しております。ただ、狭い道を広げるとか、大規模な改修が必要なものは先送りになることもあるのですが、できるところからやっていくような体制を取りますので、ご了承をいただければと思います。

**産業環境部長：**子供の多い家庭に対するゴミ袋の無料配布等でございますが、その他にも紙おむつとか低所得者への支援とかの問題もございますので、今回のご提案につきましては、関係課と協議しながら進めてまいりたいと考えておりますので、今の段階でこういうふうにしますとは言えませんが、ご意見には十分配慮して、来年の有料化に向けて検討してまいりたいと思います。

**参加者：**子育て環境の課題ということで、皆さんに意見を聞いたのですが、1つは地域においては子供の減少に伴い外で遊んでいる姿を見ることがないので、子供と大人の関わりがほとんどないのでどう関わっていいかわからないという意見がありました。2つ目に、家庭内においても、親と子の絆がうすくなって、うまく子供とのコミュニケーションがとれていない人もいるようで、スマホやゲーム等をしていて、親と子の会話が少なくなっているということです。3つ目に、知らない子供に声をかけられない社会的風潮がある。昔は悪いことをしたら、大人が子供に声をかけていましたが、今は見られません。4つ目は、登下校で見廻りパトロール隊をやっている人が、あのような事件を起こしたので、誰を信じていいのかわからないということです。5つ目に、子供たちが集まって自由に遊べる場所がなく、川や山どこへ行っても危険ということです。昔の子供は山に行って自由に遊んだり、川に行って自由に泳いだりしたのですが、今はどんどん削られていく状況ということです。

**教育長：**現状はこのとおりなのですが、このままでいいのかということではなくて、各学校の校長と考えていることは、子供は家庭で育ち学校で学び地域で生きるというのが、共通した理念なのです。ここにありました登下校で見廻りパトロール隊をやっている人が、あのような事件を起こすと誰を信じていいのかわからなくなるということですが、確かにそうなのですが、それでも人を信じなさいと教えるのが教育だと思います。見守る目が多くなればなるほど、地域が安心してというところに関わってくるのではないかなと思います。これが、私の今のところの見解です。

**参加者：**最近、地域の若者たちは仕事がないために、地元を離れていくということで、合併して10年経ち9万人から10万人にしようということで、轟工業団地や産業団地がありますので大手企業を呼んで、結婚して子供を産んで子育てとなりますので、若い人が暮らせるような地域をつくっていただきたいと思います。また、最近の事件では、家庭のルールというのできていないような感じがして、10年前ぐらいからゲームとかが流行り、今大きな事件となると、20代や30代の人間が殺人事件とか誘拐とかを起こしております。それは、道徳心

がないのかなと思います。ゲームなどをやっている、リセットすれば生き返って戦えるという条件反射ができていく感じがします。勉強も大切だと思いますが、これからは、道徳のほうを先行していただければと思います。また、地域に対して子供がたくさんいますので、自分の子供と同じような目線で見守っていくということで、どこの誰かわかるように地域の活性化もしなければいけないと思います。あと、共働きが多いので、市でやっている保育園の時間を延ばしてもらえないかという話が出ました。

**総合政策部長：**まず職場づくりということで、まち・ひと・しごと創生総合戦略というのをつくって、平成28年度から5年間の計画で進めております。その中の大きな目標の1つに、安心して働くことができ安定した生活を支えるしごとをつくるということで、そういったかたちで、様々な取り組みをしているとご理解いただければと思います。

**健康福祉部長：**保育園と児童クラブがあるのですが、小学校に上がった子は児童クラブで、上がる前の子は保育園で、夜は保育園が通常6時半で、延長で7時までです。児童クラブは通常6時で、延長で7時までになります。

**参加者：**もう少し遅くまでみてもらえないかということです。

**健康福祉部長：**さらに延ばしますとは言えないのですが、そういったご要望があるということは理解しました。

**市長：**藤原地域の懇話会でも、夜間保育をというお話をいただきました。やりますとはなかなか言えないのですが、これは8時頃まで延ばすということですね。これは可能かどうか検討させていただきます。

**教育長：**道徳のことについてですが、昭和20年12月31日にGHQのマッカーサー指令が出まして、戦前のものがすべて禁止されました。ところが、道徳的なものは必要だろうということで、昭和34年に道徳の時間として週1時間復活しまして、今度の学習授業の改定で平成30年から特別教科道徳ということで、教科になります。今までも各小中学校ではやっていたのですが、今以上に道徳に力を入れていきます。ただし、道徳の1時間の教科なのですが、道徳教育は学校教育活動全体をとおして行うものということで、子供たちの心を育てていきたいと思っています。

**参加者：**今回の子育て環境というところでは意見がありませんでしたが、保育の延長について、まず日光市を考えると観光業が主な産業になるので、イコール観光業に携わっている人が多いわけです。そうなってくると、土曜日と日曜日は働いている方が多いのです。それに対して保育園は、日曜日は休園で夜間は7時までということで、それ自体がそもそもずれているのではないかなと感じています。市民サービスというところを拡充させようと思っ

たら、土曜・日曜は通常保育であるべきではないかと思えます。学校に関しては仕方ないと思えますが、市の管轄する保育園や児童クラブは、お店が終わるのが7時や8時なので、迎えに行けるのはその後になるので、それを考えれば何時までみていたらいいのか、難しいところではあると思うのですが、現状の5時半という時間は2次産業であったり、役所だったり、そういった方々の時間の都合なのではないかなと感じています。そこを改善しない限りは、そういった方々の子育て環境というのは、なかなか充実してこないのかなと思ひまして、改善できるのであればしていただければと思います。

**健康福祉部長：**まず、観光業の方のお子さんの預かりということで、市長からもありましたが、藤原地域でやったときもそういった話が出ていて、保育園そのものの延長ということで考えたのですが、なかなかそれは難しいと思えます。ただ、実際に今おっしゃったような方々の需要がどれくらいあるのか、それに対して保育園のかたちで延長するのがいいのか、子供を預かる場ということで、何か別の方法はないかとか、それに応じて考える余地はあるのだろうかということで、藤原地域の方には実状を教えてくださいと、そういったところから検討していきたいということでお話させていただきましたので、そういった対応をしていきたいと思ひます。それと、土曜・日曜の保育園と児童クラブのお話でしたが、現状でお話しますと、基本的に土曜日は両方で預かれるようになっていて、日曜日は特別保育で、下原保育園を受皿として行っております。児童クラブについては、今年7月1日から下原児童館で月2回の試行なのですが、日曜日にも預かれるような仕組みをはじめました。それで十分かは検討の余地があるのですが、そういう要望があって、それに少しでも対応しようということやっていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

**参加者：**私は2点ありまして、まず1つ目が、豊岡児童館の教室を学童の教室として使用しているため、児童館の子供たちが不便な思いをしていると聞きました。また、園庭のほうも使えなくて、豊岡のグランドまで移動しなければならないので、子供たちを見守る先生方も大変という話も聞きました。学童は、小学校の空き教室を利用できないかということと、送迎に来る保護者の車の出入りも危険という話もありました。2つ目ですが、豊岡地区ではないのですが、かましんの中にある親子で遊べる施設の利用で、お母さんと子供が日光市内で、日光市外の親子と利用しようとしたら、市外の方は遊べないということで遊べないで帰ることがあったので、その辺についてお聞きしたいと思ひます。

**健康福祉部長：**児童クラブですが、豊岡児童館を使わせていただいておりますが、そのかたちがいいとは思っておりません。無理がある使い方かなと思ひます。ただ、現状で小学校の空き教室を1カ所使わせていただいているのですが、学校のほうでもそれ以上使うのは難しいということで、ずっと豊岡児童館を使っている状況なのですが、来年教室が1つ空くらしいので、その辺を改善できるように協議していきたいと思ひますが、できるだけ早くいい環境におきたいなという思ひはあります。

**参加者：**児童館の子たちが遠慮しているところがあるという話を聞きました。園庭には柵があり安全な部分もあると思うので、できれば早急をお願いしたいと思います。

**健康福祉部長：**安全は確保したいと思いますが、できることは取り組んでいきたいと思います。そういう問題意識はもたせていただきます。それと、地域子育て支援センターのお話ですが、今も基本的に市外の方の利用は、誰でも大丈夫ですということにはなっておりません。市内の方の利用が前提になっているのですが、市外の方が市内を通過するときに、誰でも使っていていいですというと、スペースの問題とかがあるので、そういう対応ではなかったことだと思います。今みたいな例で、お友達と一緒に来て、市内の方は利用できるけど、市外の方は利用できないというのは、おかしな使い方だと思いますので、そこは改善していきたいと思います。

**市長：**センターの職員に、そういうことを言われたということですか。

**参加者：**一緒に遊ぼうと行ったのに、そういう理由で利用できないと断られたということです。

**市長：**その辺について、市外からもたくさんきていただいたほうがいいので、指導したいと思います。

**参加者：**子育て環境の充実ということなのですが、地域に若い人が定住して結婚して、子供を育てたいと思える地域にするにはということで、2つほど考えてみました。まずは、自分たちにできることということで、やはり若い人からいろいろな意見を聞かないといけないのではないかと思います。若い人がどんな不満を持っているのか、不安なことは何なのかという実状を知ることが必要ではないかなと思います。私は民生委員をやらせていただいています。高齢者の実態調査というのをやっています。1軒1軒訪ねて行って不安なこととか、困っていることとか聞いているのですが、若い人にもそういうアンケートをしてみてもどうかと考えています。今まで、そういうアンケートを実施したことがあるのか聞いてみたいと思います。もう1点なのですが、子供の数が少なくなっているのは全国的にそうだと思うのですが、若い人が結婚相手を見つけられる場、そういう機会を設ける企画を、ぜひつくっていただきたいという要望です。このメンバーで帰りに話をしたときに、栃木県の男性は結婚しないランキング全国2位と聞きました。栃木県でも栃木結婚支援センターを設置して、今年1月から登録会員の募集開始をはじめているようです。ちなみに入会費は5,000円です。民間ですと30~50万円だそうです。日光市でも、そういった企画をつくっていただきたいと思います。それで職員の方の仕事が増えて大変ということであれば、一般からもボランティアを募って随時進めてほしいと思います。私も何かのお役に立てれば、ボランティアとして参加したいと思います。

**総合政策部長：**アンケート調査の関係ですが、市全体の行政サービスに対する満足度ですとか重要

度ですとか、そういった指標のために、1年おきに市民意識アンケート調査というのをやっております、これは年代ごとに区切りまして、それぞれの年代から意見が取れるような工夫をしております。また、アンケートについては、各課で計画などをつくるときに、その目的に応じて、子育てですと子育て関係を中心にアンケートを取るとか、そういった工夫はしている現状があります。今後も続けていきたいと思っております。

**地域振興部長：**若い世代の方の出会いの場についてですが、おっしゃるとおり、若い方の育ってきた環境の違いや、人との付き合いが上手くできないということが根底にあり、出会う機会が少ないことも否めないようです。その意味で、結婚支援センターなどに申し込むことで、早く相手が見つかる可能性があるといえます。実際、県の支援制度では、多くの情報が集まってくるので、それをシステム化して登録者を募りマッチングさせるという手続きも、より有効に機能するということになります。そのほか、出会いのサポーターという仲間みたいな方も募ったりしています。市のほうからも3名ほどのサポーターが、県の制度に登録してくださっています。地域の中にはベテラン市民と言われるような女将さんがいらっしゃるの、女性団体連絡協議会などを通じて、そうした元気な女将さんに登録していただけないかと呼びかけをさせてもらっているところです。具体的な市の取組としましては、昨年度から出会いの場の機会を創出するため、いわゆる婚活というところの縁結びのイベントをやらせていただいております。昨年は2回実施し、本年もまもなく通算3回目が行われます。今年は7月23日に、「日光恋活」と銘打ち、小佐越地区にある東急ハーベストの「ランチビュッフェとスイーツとリバーサイドハイキング」というスタイルで、男女20名定員で行う予定です。今後もこうした取組を継続していきますし、別途民間で開催している方たちに対し助成金を出す制度も用意してありますので、併せて推進してまいります。

**参加者：**それは、広報紙か何かに載っているのでしょうか。

**地域振興部長：**広報紙にも載せていますし、先般の記者会見の中でも発表したものですから、各新聞の地方版のほうにも載るかなと思います。

**参加者：**今、とても感心することは、お父さんが送り迎えをしていることです。私たちの世代は、考えられないことです。お父さんが、お布団や荷物を持ったりして、偉いなと感動しております。私たちの子育ての時代というのは、土日は家の仕事でなかなか子供と遊ぶ機会がなかったのです。でも、今の親子を見ていますと、休日は親子で出かけたり触れ合う時間を大切にしているなと気づかされています。その中で、休日は市内にいないということを考えさせられました。壬生に行ってきたとか、宇都宮に行ってきたとか聞きますが、よくトコトコ大田原に行ってきたと聞きます。どんなところかなと思い、私も行ってきました。そしたら、子供が遊べる場所から直売所もあって、大きな施設ではないのですが、親子で遊べる場所なのです。そういう施設が日光市にもあったらいいなと思います。かましんにもあ

り何回か孫と行きましたが、保育園や幼稚園に上がる前の子供たちが遊ぶところなので、そこでは思うように遊ぶことができないし、親と子の触れ合いというのも、そんなにできないのではないかと、私個人の考えなのですが思いました。休日に市外に出かけてしまうのはもったいないと思うので、そういう施設をつくっていただいて、親と子が交流できる場があれば、若い人たちは日光市に住みたいなと考えるかなと思います。できれば、この豊岡地区にそういうものをつくってもらいたいなという願いです。

**健康福祉部長：**私はトコトコ大田原に行ったことがないのですが、子供を遊ばせるのにそういう施設があるといいというのは、間違いなくそうだと思います。ただ、どういったものかいいとかいろいろ考えなくてはなりません。小さいお子さんですと、かましんのところでもいいのかなと思いますが、それより上のお子さんだと、難しい面があるのは事実だと思います。とても大きな課題で、何とかしたいと思うのですが、ご提案があつて、そういった要望があるというのは認識しておりますので、何か考えていきたいと思っています。

**参加者：**トコトコ大田原みたいに大きくなくてもいいと思います。トコトコ大田原は、大人も子供も利用できるという施設なのですが、日光市では親と子が遊べる場所というのが、だいや川公園にあります。冬は遊具を使うことができませんし、松原公園は遊具が少ないし危険です。そういうところを見直して、大きなものでなくていいから、小さいことから少しずつやっていただけたらと思います。

**市長：**私は、宇都宮にもトコトコ大田原にも行っていますが、こういう施設ばかりではなく、日光にはいいところがいっぱいありますから、そういうところにもお父さんやお母さんが連れて行って、ハイキングするとかも必要なかなと思います。施設ではなくて、市内のいいところにも行ってほしいと思います。

**参加者：**日光市の施設はすごいと思います。それは、大人の上から見た施設のいいところなのです。やはり、親子で遊べるというところに、若い親たちは重点をおいているのです。日光市はすばらしいなと、この年代になってわかるのであって、今の若い人たちに日光はいいところだから行ってみたらと言っても、それは無理だと思うのです。子育て支援ということでやっているのだから、親と子の交流の場を、1つでもいいからきちんとしたところをつくっていただきたいという意見です。

**市長：**長期計画もありますが、残念ながら施設をつくる予定はありません。新設の予定はありませんが、今の施設を充実させることは可能だと思っています。その辺をご理解いただきたいと思っています。

**参加者：**豊岡地区の子育て支援ということで、先ほどもご意見があつた学童保育とかのほかに、野球とか体育協会の行事なども関係してくると思うのですが、子供たちや親御さんたちがど



ういうことをやってほしいとか、どの程度知っていただいているかということと、そういうことにどういう方が協力できるかということ、わかっていたきたいと思うのです。自分たちも子育て支援ということが、どういう人が必要で、どういう人が必要ではないというのがわかっていないので、自分なんかのときには、そういうことが必要なく子供が大きくなってきましたので、あまり実感がありません。働いていて子供をみられないという方の子供さんが、学童保育を利用していると思うのですが、そういうところを把握していただければと思っています。どういうことを自分たちが協力できるか、今現在わかっていないと私自身は考えております。

**市長：** 体育協会の役員さんということで、そういった行事等においては、お子さんたちや親御さんには理解してほしいということですね。参加するのが第一ですね。

**参加者：** 私が思うのは、高齢者1人、2人の世帯は多いと思います。子供たちは別居してしまいます。勤務先が、県外とか市外という事情で別居するのだと思います。現在も企業誘致をしていると思いますが、さらに増やしてもらって、子供たちが市内で親たちの近くに住めるような環境をつくってもらえれば、孫の面倒もみられるのではないかと思います。高齢者は孫と一緒に住んでみたい、孫と交流したいと思う人が多いと思います。私は孫と一緒に住んでいて、他の人から見るとうらやましいのかなと思うのです。そのようなことで、勤務場所を市内に増やしていただければいいかなと思います。

**市長：** これまでも何人かからご意見いただきましたが、轟工業団地は1区画残っており、日光産業団地は1区画入りまして、今2、3件引き合いがあります。しかしながら、社員数が多い会社というのはなかなかないのが現状です。私が今市市長だった頃には、そこは原っぱで企業は1軒もありませんでした。それをほとんどふさいだわけですが、何百人いるのかというと、残念ながらそこまでの人数ではありません。一番多いのは、大日光エンジニアリングです。10でも20人でも雇用が生まれるよう、引き続き誘致していきたいと思います。

**参加者：** 子育て環境の充実を図るということで、まずは、結婚された方が子供を産みやすいような市にしていきたいと思います。

**健康福祉部長：** ぜひ、そういう市にしていきたいと思います。最初に説明させていただきました施策の充実に向けて、どんなことを望んでいらっしゃるのか確認しながら、できることを取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

**参加者：** 子育て環境の充実につきましては、ほぼ出た内容と同じです。1つは、教育環境ということで先ほど説明があったのですが、専門学校や大学誘致をお願いしたいと思います。あとは、子供たちの教育施設の図書館とかの充実なども考えていただきたいと思います。もう1つは、こちらの資料のほうで子育ての支援事業計画などを見ますと、本当に充実した中身に

なっていますが、親にとっても住みやすい環境を、今後考えていただきたいと思います。特に、道路の整備、企業の誘致、今、日光市には日光医療センターと市民病院があると思うのですが、各科の専門がある大きな総合病院があれば、親御さんも安心して病院に行けるのかなと思っています。特に、道路整備については、学童スポーツを子供たちがやっているのですが、親御さんが宇都宮のほうに仕事に行ったりしていると、なかなか協力できないということで、学童スポーツを子供たちがやれないという話も聞くので、親御さんの通勤時間短縮とかを考えていただければと思います。あと企業の誘致なのですが、やはり就職の時期にきたときに、同じぐらいの年代の子に、県外の大学に行って戻ってきて就職したらどうだと聞きますと、今の日光市にある事業所がどうのこうのということではないのですが、魅力ある事業所が見つからないということで、首都圏や県外に就職してしまっただけ帰ってこないということも聞きますので、ぜひ、今後も企業の誘致に力を入れていただいて、できるだけ地方税も上がるようお願いしたいと思います。

**市長：**お子さんが専門学校に行ったり、県外の大学に行って帰ってこないケースが多い状況です。市民意識調査アンケートを2年に1回やっておりますが、市民の皆さんの上位にあるのは、勤め先のことなのです。これは、今市であれ、藤原、日光、栗山、足尾みんなそうなのです。企業誘致もやっていますが、なかなか追いつかないのです。例えば、今市工業高校を出て、市内に勤めたいというお子さんはたくさんいるのです。市内にある工場にはお願いして、必ず1人か2人は採っていただいています。それでも全部をカバーできないので、鹿沼や宇都宮にいったり、東京に行ったりということになってしまうのです。やはり根本的には、大卒者の場合には、工場で採用ではなく本社採用になってしまいます。だから地元に戻ってきたくても、本社採用でどこに行くかわからないのです。そういう日本の経済の仕組みがあり、地元に戻ってこられないような要因になっているのです。それでも、高校を出て地元で勤めたいというお子さんに対しては環境整備をしたいと思います。1つでも多く企業誘致をしたいと思います。それから、道路整備で通勤時間を短縮するというのは、なかなか難しいです。

**副市長：**総合病院の誘致というお話がありましたが、大前提として今の医療ベット数は増やさないというのがあります。ベット数が200~300床の総合病院が、新たに日光市にできるということは、可能性としてゼロに近い状態です。ただ、産科とか小児科とか一部のものについては、かなり規制が緩いというところがあります。産科と小児科だけですと、総合病院というよりも、1つの産婦人科の先生がやる、あるいは小児科の先生がやるというパターンになってくると思います。あとは、今ある病院の中で、どういうふうに組み立て直しをしていくか、そちらを探っていくほうが現実的には可能性が高いと思います。医師会との話し合い等を市のほうで行っていますので、2、3年後というのは無理だと思いますが、同じような課題を市のほうでも捉えておりますので、診療科目の充実については、これからも検討していきたいと思っています。

**参加者：**子育て支援ということで、現在、共働きとか、ひとり親世帯がほぼ占めていると思うのですが、市のほうでもファミリーサポートとかいろいろあるのは最近知ったのですが、ハコモノとかに頼るのではなく、サービス業なども観光関係が多いですから、民間委託になるかもしれませんが、市の認定をいただいたベビーシッターをやっていたら、皆さん使いやすいのかなと思います。

**健康福祉部長：**ファミリーサポートセンターの仕組みは、住民の方から盛り上がってできた事業なのですが、子育て中の親御さんが手伝ってほしいことを登録し、また、地域の方々がこんなことができますという情報を協力会員の方が登録して、それを結びつける仕組みです。今、おっしゃっていただいたベビーシッター的な役割もしていただけるような仕組みですが、地域によって、こういうことをやってほしいという方と、できますという方がうまく合わない場合もありますので、誰でも希望どおりに使えますというのは難しいのですが、ファミリーサポートセンターの仕組みを地域にどんどんお知らせして、協力していただける方を増やせば、使いたいという方もマッチングする可能性は高まりますので、そういうところに力を入れていきたいと思います。

**市長：**一通り皆さんの意見を伺いましたが、他に何かありませんか。

**参加者：**企業誘致の話がありましたが、我々もそうですが学校を卒業して他に行って、他で生活して日光に戻ってきました。それは、育ったところがふるさとで戻りたいなという心境があるからだと思います。学校時代、保育園や幼稚園時代も含めて、いかに自然と親しむかということが大切だと思います。それで、外へ出ていろいろな社会勉強をしてふるさとに戻ってきたいなという環境づくり、またふるさとへ戻ってきて起業したい、独立したいというような環境をどうつくるか、それを市として、または地域として取り組んでいくか、日光市全体として考えていけたらいいのかなと思います。

**産業環境部長：**7月の広報紙に雇用創出の奨励金や、空き店舗を使って新たなお店を開きたいとか、リフォームしたいとなると運転資金や操業資金などが必要ですので、市のほうの融資制度もございますので、このようなものをご覧いただきながら、詳細につきましては、商工課にお問い合わせいただければ、より具体的にご説明して、新たな創業ができるかたちで市として支援してまいりますので、よろしくお願いします。

**参加者：**紙とかの媒体で知らせるのはいいと思いますが、デジタル化していますので、アナログ的な発想というのが、こういう時代だから反対に必要なのかなと思います。ホームページも結構ですが、アナログ的な人対人の人情的な部分というのが、全体的に必要なかなと思います。それは、学校教育も含めてだと思います。

**教育長：**私は教育長になって8年目なのですが、8年前に理念として立てたのが、日光に生まれ育

ったことを誇りに思える子供の育成ということ、最初の柱にして各学校に取り組んでもらっています。具体的には、自分たちで課題を見つけて取り組む総合的な学習の時間があるのですが、それを日光未来科としまして、これは中学校が中心なのですが、日光の良さとかを発見するというので、先ほどおっしゃったように将来日光に戻ろうかなと、そう思える子供を育てたいとして重点化しております。